

「キノコ」というのは、生物の正式な分類名称ではありません。真菌類の子実体（胞子の生成と拡散を担う器官）のうち、肉眼で見える---つまり特別な手段を使わなくても同定できる大きさを持つ種のことをさします。カビも真菌類ですが、子実体は顕微鏡レベルです。変形菌（粘菌）の子実体は肉眼で見えますが、真菌類ではないのでキノコとは区別されます。

地球全体のキノコは 50,000 種以上、日本だけでも約 6,000 種が存在すると推定されています。しかしそのうち、完模式標本（その種の確定の元になった最も重要な標本）が存在し、学名まで確定している種は 4,000 種程度、和名まで存在するものはわずか 3,000 種程度とされています。つまり、残りの約 3,000 種類のキノコには「和名がない」のです。先日見つけた「キノコ」も、それに該当します。

東海道線の根府川駅の近くの林道で、枯れ枝についた小さなキノコを見つけました。私はキノコには少し詳しい（と思う）ので、すぐに「和名（種名）」を知りたくなります。茎が見えず、ヒダは疎です。「スエヒロタケ」かとも思いましたが、色とヒダの密度がちがいます。結局その場ではわからず、帰宅後に調べました。結果は *Crepidotus variabilis*（クレピドトゥス・ヴァリアビリス）という種でした。*Crepidotus*（標準属名）は「ヒダナシタケ属」ですが、確定した和名（標準種名）は存在しません。

キノコは本来「木の子」という意味です。このキノコはまさしく「木の子」ですね。和名をつけるとしたら、「ヒメカレエダタケ」（姫枯枝茸）が良いと思います。

（2025 年 12 月中旬／東海道本線根府川駅近傍）

